

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 第77号 2022年10月

甲南山岳部・甲南山岳会

随 想

山岳部諸先輩・同輩から教わった俗話	牧野 宏		2
中井さんからのお便りに思い出すこと	大森雅宏		4

追 悼

カンさん ありがとうございます。	柏 敏明		10
------------------	------	-------	----

会員短信

総会・慰霊祭 出欠はがきから	(構成) 井上知三		14
----------------	-----------	-------	----

報 告

総 会	井上知三		20
慰 霊 祭	井上知三		23

ホームページから

掲示板ダイジェスト

牧野さんの 「神戸にしひがし・兵庫みなみきた」		24
シゲアキさんの 「北アルプスまとめて8題」		26
南里さんの近著 「世界史を歩く 一新全世界紀行一」		34
山行と集いをメインに	(構成) 大森雅宏	 36

編集後記に代えて

寄稿のお願い	塩崎将美		52
--------	------	-------	----

— 随想 —

山岳部諸先輩・同輩から教わった俗話

牧 野 宏 (昭36 経)

(昭25年 旧制理) 河崎 厚二 先輩
『準備・計画細心、着手大胆』

着々と準備し心を決めたら、目をつむりエイヤーと進むことも時として必要だ。

香月会長なき後、おたま先輩が会長になられたが急逝された。

(昭31年 経) 阿部 純一 先輩
『セーフティファーストが全ての基本』

敬虔なクリスチャンが厳かにS. F. を唱えられると良く身にしみた。

(昭32年 経) 柏 秀樹 先輩
『手紙の書き方』

ある方にお問い合わせの手紙を書いて、柏先輩にその下書きを見てもらった。

時は昭和の終わり頃か平成になって間もない頃の初夏。

場所は三宮国際会館地下のサントリーバー。

柏先輩曰く「あのなあドン、依頼ごとのついでに暑中見舞いは書いたらあかんで。」

先輩の隣席で、小学生のようになった私はウキスキーのグラスを傾けていた。

このバーは柏先輩やオニさん(小原耕治先輩)も常連さん。頻繁に出会った。

先輩は毎年の冬には「愛妻から結婚前の初めてのプレゼント。」とにやけながら、かなり古びたマフラーを、いかにも大切そうに巻いておられた。

(昭34年 経) 田邊 潤 先輩
『工夫を惜しむな』

体育会のパレード用に、全員に揃いのユニフォームを作ってくれるとのこと。

田邊先輩に持って来いと言われ、10人ほどの部員が各自白いシャツを持ち寄った。

部室の前でドラム缶に染料を入れそのシャツを焚き、見事な真紅に染め上げたのだ。

「どや 揃いのユニフォームやで 綺麗やろ。」

後年社会人となってから田邊エア・コンプレッサー本社を見学した。

この時も柏秀樹先輩と一緒にだった。

本社の工場敷地のなんと広いこと！。

打ちっ放しの有料ゴルフ練習場が片隅にあった。

田邊先輩から商業と工業の違いを教わった。

牧野が科学少年を自称しているのもガチャ先輩によるものだ。

(新高32年 同輩) 平井 吉夫 君
『革命は3年で腐敗する』

学生運動華やかなりし頃。

彼は早稲田大学文学部に在籍して、全学連副委員長として本気で取り組んでいた。

だが3年ほどで精神が墮落して道義がすたれ、弊害が生じる状態になることを彼は感じ取っていた。

熱心に学生運動に一身をかけて取り組みながらセンキチは醒めていた。

阪神・淡路大震災の折、阪神間は大停電、町中のどこも信号は当然点灯しない。

警官は見当たらない。

しかし車は徐行し、交差点では停車し譲り合っていた。整然と車が走り、皆が善人だった。

ところが3日も経過すると、我先にと雑然と激変した。怒鳴りあっていた。人は変化した。

この変容には驚いた。他府県ナンバーの車が進入してきた所為もあったかもしれないが。

道德意識を失いかけた光景に、ふとセンキチの・・・腐敗する・・・記憶が蘇っていた。

話が遡るが、センキチと2人で、高1の夏ロックガーデンに1泊のキャンプに行った。

真っ暗な夜、爆音、破裂音が継続して聞こえた。

「革命だ。呑気にキャンプしている時じゃないぞ！ 帰ろう。すぐ帰って参戦しよう。」

「いやまあ今夜は寝ような。朝まで待ちいな」
時代の最先端を行く兆しの有ったセンキチとノンポリにもならない私の会話。

翌朝帰宅してから、爆音は町の花火の音だったと判った。

このことを後にセンキチと話したことが有ったのか、私は覚えていない。



中井さんからのお便りに思い出すこと

大森雅宏 (昭53文)

今年(令和4年)8月8日に高校 OB の中井久夫さんが亡くなられた。中井さんは昭和21年に旧制甲南高等学校の最後の尋常科入学生とされた。在学中に学制改革、昭和27年に新制高校第2回のご卒業。京都大学法学部に進まれたが病気休学を機に医学部に転じられた。私が本誌の編集を担当していた頃、何度かお目にかかってお話しいただいたことを有難く思い出す。その時にいただいたお便りを紹介して、思い出すことを綴ってみたい。

*

最初の機会は平成18年。「中井さんに原稿お願いできたらと思うんですがお口添えいただけませんか」、と田辺ガチャさんに相談したところ「ワシよりオニのほうがエエと思う。オニに頼んどく」と請け合ってくださった。ほどなく小原さんから「話はしてある、アンタが直接お願いしておいで」との電話をいただいた。初対面の先様は医学部教授。統合失調症の大家。ご専門の著書・訳書、エッセイ集などの書名だけ頭に詰め込んでご自宅に伺った。原稿のお願いは小原さんの「ルート工作」のお陰で快諾いただいた。細かな打合せのあと少し雑談の時間を頂いた。傍らにあったバイオリンは奥様のレッスン用であること、その頃「甲南 Today」に連載されていた「鳩杖」についてなどが話題になったと覚えている。綺麗に片付いたお部屋を辞するとき、「この本を

記念に差し上げましょう」とエッセイ集「樹をみつめて」にサインをしてくださり「今日はよくおいでくださいました」と右手をさし出された。あたたかな握手をしてくださったのが印象に残っている。(この中井さんの「握手」は初めて診察する患者さんへの「儀式」であるらしいことを知ったのは、だいぶ後になってであった)

その時ご寄稿頂いたのが、「敗戦直後の山岳部北アルプス行き」(山嶽寮 62号(2007 H19))で、しばらくしてから頂いたのが次のはがきである。

*

『山嶽寮』の拙稿にはすいぶんお世話になりました。ずっとこまめに拙宅まで来て下さったりして恐縮でした。尻すぼみの山行き記です。巻頭でとても羞かしく思いました。まあ、世相の反映の記録と思っていただきましょうか。巻末の紹介にはいっそう恐縮でした。

『鳩杖』はけっこう反響があって、よく読んでもらいました。小川守正先輩は甲南大学在任中の私を陰ですいぶん支持してくださったらしく、「鳩杖」も広報室でやめてから2年分を書きおいて、いずれ甲南でまとめて出すという話でしたが、甲南もすっかり人が入れ替わったらしく、立ち消えのようです。記録としては多少意味あるかな、平生論もあるし、とは思いますが — 文章はともかく。

小川先輩が全部もう読んでられるとうかが

ったのはさすがと思いました。私も実はほとんど全文を毎号読んでいます。雨宮さんの論考はとてもすばらしいと思いました。私はメイスンくらいで止まっていますので、時代による変化というものに目を開かされました。よく体系をつかみとって、明確な特性づけをしておられるのは、ただものではないとの感に打たれました。

小川先輩の1947年の前穂積雪期行はあの時代に！と感じ入りました。1950年にゲートロックでブラ下がってブランブランしていた小生が改めてこっけいに思えます。

部員が少ないのはアルピニズムが死語になってゆく勢いで止むを得ないのかもしれませんが、惜しいと思います。ネパール在住の彼はどうなっているでしょう？政情不安を読むたびに思い出します。

田辺、小原の両“さん”にどうぞよろしく。

＊

「敗戦直後の山岳部北アルプス行き」はその後エッセイ集「日時計の影」にも収載されている。両者を比べると短い語句が差し替えられたり挿入されたり部分のいくつかある。大きく異なる2か所のうちのひとつは、パラグラフ4の「当時の中学校としては異例の少数教育であった」に続く部分で、図書館員のことが加筆されている。部分を引用すると「館員の依田敦子さんは若い美人で、皆に愛想がよかったが、私は特にかわいがられて、こっそり書庫に入れてくれ、後には書店の「甲南堂」や「丸善」が見つくろって持ってきた本を積み上げたのを見せて「どれを購入して

ほしい？」とって私をそわそわさせた」。

この図書館員さんの思い出は中井さんのほかのエッセイでも登場していた記憶がある。ひょっとしたら中井さんにとって格別な思い出の方だったのかもしれない。

実は最初にご自宅に伺ったときお持ちしたものがあつた。「甲南高等学校図書館」の蔵書印のある国語の教科書である。茶色く変色した表紙、戦後間もないころの発行、教科書にしてはずいぶん薄い本で昭和50何年かの廃棄印があつた。いなか町の時間つぶしで入った古書店で、平積みのなかからたまたま手に取ったものだった。原稿のお願いの話の中で折を見て、先生の甲南時代と重なるかと思ひまして、とお渡しした。しばらく手に取ってじっとご覧になった中井さんは「この本には覚えがありますよ」と口にされた。勝手な想像だがその時中井さんは依田さんのことを思い出されたのではあるまいか。

＊

二回目の原稿は同級の柳澤正さんの追悼文（山嶽寮64号(2009 H21)）だった。この時は編集担当ではなかったが、前回からの流れもあつてご自宅をお訪ねした。

追悼文の中で中井さん達の入学前年、昭和20年の入学生は大阪湾に浮かぶ艦船が航空機から攻撃を受ける様子を目にしたという、との記述があつた。阪神淡路の震災時に海上自衛隊のサポートがあつたことをエッセイに書いておられたこと、東灘の埋立地には海上自衛隊の基地があることなどから話題がフネのことになり、中

井さんは大のフネ好きでありいろんなお話をいただいた。その時に話し切れなかった分は次のようなお便りでご教示くださった。陸軍が航空母艦をもっていたはそれまで全く知らなかったし、天気図の気象通報、ラジオから聞こえる「船舶の報告」はいつも同じところに船がいるものだなと思っていたが、観測船が定期的に打電してくるものとは想像もしなかった。

*

5月10日 中井久夫

わざわざおいで下さったのに、お目にかかれず残念でした。

調べてみるもので、英国から出ている Imperial Japanese Navy によれば、1945年8月に Otakisanmaru (大滝山丸?) というのが神戸で沈んでいます。日付は敗戦後です。私の聞き違いか思い違いですね。(この空母のかっこうをしたフネは、日本の写真帳にはのってません。)

なお、日本海軍は、「大和」が巡洋艦 1、駆逐艦 8 を伴って出撃した後は、燃料がないため、甲板に木を植えて、軍港防衛艦と称していました。長門が横須賀にいた他は主な艦艇は呉に集まっていて、7月24日の空襲ですいぶん沈みました。源田大佐の率いる紫電改の活躍といってもその壊滅を防げませんでした。

それでも敗戦の時には残っていて引き揚げに使えたのが空母「葛城」(改「飛龍」型)、同「鳳翔」(練習用になっていた世界最初に空母として(改造でなく)造られたもの)、陸軍航空母艦「熊野丸」がありました。「長門」と

軽巡洋艦「酒匂」(最後に完成したもの)とは比キニ環礁の原爆実験に供されました。

引揚は、わりと残っていた海防艦(護衛艦)が動員されました。学生が動員されて一部作ったものです。

戦後に完成して引揚に使われた艦もあるそうです。レーダーのない時代の太平洋上に気象観測の「定点観測船」にも、その他海上保安庁にも使われました。自衛隊が使ったのは引き揚げた旧松型駆逐艦で実験用だったとききます。

「葛城」乗組の士官で東大医科研(伝研)で会った三井さんという中尉は、高角砲(海軍ではこういいました)の指揮官でしたが、ベトコンのことを あいつら、えらい と感心していました。向かってくる艦載機に対して射撃したらよいのだが、必ず死ぬ。それで防壁にかくれて、上空を通過したら追い撃ちをするのだが、当たらない。ベトコンは木の上で踊ってアメリカ機を引きつけて撃つ(前からだとエンジンに当たる)のをえらく大胆だと。

瀬戸内海にはさすがに潜水艦は入って来ず、もっぱら航空機から投下される機雷でしたが、最新型には全くなすすべがなかったそうです。

掃海は、もっぱら、日本の木造掃海艇を日本人が使って行われました。正式には何というのか、艦艇乗組員といっていました。給与よりも食糧のほうが魅力的だったでしょう。横に並んだ2隻で掃海具を引っぱって掃海した後を、試航船(桑栄など2・3隻)が通っ

てみるのですが、乗組員は船尾に集まって、いつでも飛び込む用意をしていたそうです。

（私が書いて深江の指令から墨字の大きな感謝の手紙をもらったのは桑栄のことです）。

ところが、掃海済のはずのところ（瀬戸内海）、客船が触雷して沈み、死者を大ぜい出したのです。当時の新聞は今のようにはさわぎませんでした。これは非常に残念だったらしく、海上自衛隊の掃海（艇）隊歌には、事件をくり返すまいという意味の一節があります（今もあるはず）。

朝鮮戦争の時には仁川上陸作戦に掃海艇が参加して、一隻が爆沈しています。

もう三、四年あるいはそれ以上前になりますが、深江の阪神掃海隊の指令が海上幕僚長になったのが、県では話題になっていました。おだやかな紳士で、神戸の各界では好評だったそうです。異例だったのでしょうか。もう、やめてられると思いますが。

占領下の商船は日の丸を揚げることは禁じられ、SCAJAP 旗という赤とミドリだったか、デザインは思い出せませんが、とにかく妙な旗を揚げていました。軍艦旗は中突堤の木造掃海艇が揚げていたのですが、驚いたから占領下だったのか、あるいは錯記憶かわかりません。（今でも、掃海艇は、たしか日本のほうがアメリカより多いそうです。彼らは、掃海と細菌兵器の扱いを嫌ってました。）

御礼かたがた、故老の話をひとしきり。ではまた。



文中には「防壁」とは
のイラストも

*

最後に山嶽寮にご寄稿頂いたのは 69 号（2014 H26）。この前年の平成 25 年 10 月、中井さんは文化功労者に選ばれておられる。私はまた編集担当に戻っていたので、中井さんが文化功労者に選ばれたことを記事にしたいと思った。ホームページに寄せられた会員各位のお祝いのメッセージの紹介（別ページ掲載の案内）と略歴をまとめて「中井久夫氏が文化功労者に選ばれました」と 1 ページに仕上げた。この号からカラーページを一部採用するつもりで、中井さんのお写真をその 1 枚目にとの思いが実はあった。

こんな具合にまとめましたが内容についてご意見をお願いします、とお便りを差し上げた。ほどなく届いた、中井さんの「私設秘書」を名乗る方からの「OK しておられます」という知らせには「山岳部と私」と題する原稿が思いがけず同封されていた。

実はこの何年か前から中井さんはご自宅近くの介護施設に入居しておられた。歩行にご不自由があり車いす生活になっておられたようだった。「私設秘書」さんからのお便りには施設の所在地が書かれていたので、印刷原稿を仕上げで中井さんをお訪ねした。

幸い取次を頼んだ施設の方は門前払いをせず、「せんせーい」と呼びに行ってください。談話室で中井さんに、遅ればせのお祝いとご寄稿のお礼を申し上げ、行間を少し広い目にとった「山岳部と私」の印刷原稿をお示しして、修正する箇所がありましたらご指摘くださいとお願いした。さらりと目を通されて、ここの部分をこう変えてください、こことここは順番を変えましょう、などの指示をいただいて、今度は私が読み上げて確認、はいそれでいいですよ、で原稿完成となった。

*

思い返すと、中井さんの原稿にはいくつかのルールがあった。パラグラフは数字や「*」などのマークで区切る。この原稿はちょっとマネして「*」を使ってみた。ほかにも、漢字とカナは使い分けるルールがあるらしい。ただし使い分けの理由・根拠については不明のまま。わりと普通の漢字ではないかと思うものがカナになっている。みすず書房の「中井久夫集 全11巻」の区切りがついた中井さんはそれまでの執筆生活から解放されて時間はあったはず。もっと奥義を伺えばよかったと思っている。もっともこちらに素養がなくては伺っても理解に及べたかどうか。

*

文化功労者に選ばれたのは、評論と翻訳による功績が評価されたものであった。統合失調症の治療と研究という医業に対するものではなかったことに、違和感をもたれた方も多いと思う。

中井さんから頂いた「樹をみつめて」をはじめ他の著作からも、尋常ではない観察眼と洞察力・分析力に感銘を受けた。中井さんは患者ごとの状態の経過を時系列の図表に記録して、わずかな変化を見逃さず対応され、それが症状の好転につながると聞いたことがある。そのわずかな変化は中井さんの観察眼でなければ気づかないもので、いわば芸術の域のもの。同じ手順で対応すれば同じ結果が得られる(はずの)科学とは異なる。そのため医業での評価によらなかったのではないかと、との見解をある医師のブログで読んだことがある。

*

中井さんの著作はみすず書房ほかから出版されて、入手はわりに容易である。インターネットで検索すると講演の記録や対談の記事がいくつもヒットする。病気の回復期は登山で例えればいわば下山、そのころが一番重要なんだよとか、歯を食いしばって無理が出来るのは45日くらい、海外遠征もそのあたりを区切りとするのがよくないか、というような意味合いの山に関する記述も記憶に残る。エッセイにはそんなに難しいことは書いていませんよ、との著者ご本人の言葉そのまま信じるわけにはいかないけれど、またエッセイ集を開いて中井ワールドに浸ってみたいと思う。

中井久夫・原武史・阪急電車

越田和男：2021年4月11日

昨日の朝日新聞 Be 版から；

政治学者・原武史の「歴史のダイアグラム」というコラム記事に、我が山岳部の先輩中井さんの著書からの鉄道車両の塗装を含む意匠についての面白い引用があった。

「…阪急の車両は、1910（明治 43）年の開業から『阪急マルーン』と呼ばれる小豆色で統一されている。それだけではない。精神科医の中井久夫はこう述べている。『阪急電車は、1928 年の、当時斬新な設計であった 900 型（当時の名称）完成以来今日まで基本的デザインも外見も変えず、車体のマルーン（栗）色も車内の白い天井も、木目を写した明茶色の側壁もアンゴラ兎（正しくはヤギ）の毛織物の金緑色のシートに至るまで変えていない』（『時のしずく』）外見ばかりか社内の意匠も変わらない。たとへ車内は新しくても、昭和初期とそれほど違わないように見える電車にいまなお乗れるということだ。車体の上部に白い帯をつけただけで、阪急でなくなるという反対意見が沿線住民から出てくる。この話を聞いたときには、中央線との違いをつくづく実感させられたものだった。」

（部分）

中井さんは阪急電車 900 型についてこんなことも

「リュウさんも私も阪急族である。当時、阪急神戸線は普通が二両編成（920 型）、急行が 900 型・600 型・900 型の三両編成だった。したがって、かなりの確率で「やあ」となる。リュウさんとは先ず阪急電車の中で話す相手であった。」

山嶽寮 64 号「柳澤正君の思い出」より

— 追悼 —

カンさん ありがとうございます。

柏 敏 明 (昭41 経)

9月1日の掲示板に、「延命処置を断りケア病棟に登録を致しました。いつまで元気でおれるか分かりませんが頑張ってみるつもりです。」との投稿があり、これは大変と慌ててお見舞いに行きました。その時は、血色も良く、山の思い出や来年金婚式やと普段と変わらずお話をされ、帰り際には、皆さんに宜しく伝えてくれと玄関まで送って頂きました。それから間もない30日早朝、奥様から昨夜逝去されたとの電話を頂いたのです。家族だけで見送ると言われたのですが、無理を言って、納棺までご一緒させて頂きました。

これからは、カンさんと呼ばして頂きますが、思えば家族共々、長いお付き合いをさせて頂きました。入部した時のチーフリーダーでした。遭難事故で自粛を求められていた部活動の中から、先鋭的な部員も育ち、知床、利尻の夏の偵察、冬の前穂北尾根、西穂縦走、春の利尻等、ヒマラヤを視野に入れた合宿が続き、その象徴が湊沢からの石を担いだ下山だったと思います。OBからの非難、部員からの突き上げ、その板挟みでリーダーとして苦勞されたのがカンさんだったと思います。山岳部、山岳会が分裂することなく、印パ戦争で頓挫はしましたが、ガネッシュヒマール遠征の具体化に繋がったのは、後輩のみでなく、先輩にも筋を通されて纏められ

たカンさんの人柄のお蔭だったと思います。責任感が強く、未知のルートでは、みんなが休息している中、一人、先行してルートを確認されたりしておられました。面倒見や付き合いも良く、下宿先のお婆さんとも長い付き合いをされ、その部屋の跡継ぎに井本さんを紹介されたりもしておられました。同期の鶴木さんが晩年岡山で闘病されていた時も、何回も訪問され、最後まで面倒を見られていたのは普通では出来ない事でした。ただ、一寸、シャイな所があつて、写真撮る時に気に入らないときにはブイッと横を向かれる様な事もありました。

卒業されてしばらく、会社勤めをされましたが、意のある事があられたのか、長期の九州、四国の単独旅行をされたのち、下水道関係の会社を立ち上げられました。奇しくも直前に亡くなられた松下さんも一時期勤められていました。下請け的な仕事であったため、色々と苦勞されたと思いますが、最後まで頑張られました。家族同士も親しくしていただき、井本さんの会社のマイクロバスを借りて、二家族9名で高山、乗鞍、上高地と巡り、幼稚園児であった娘さんも徳本の峠まで頑張られました。日航機が御巢鷹山で墜落した日が出発の日だったので、毎年追悼の報道がされる度に、もう、何年経ったのだなと当時が思い出されます。三井寺の近くのご自宅で、

町内会にも色々とお世話をされておられました。お祭りの時など皆でお伺いをし、ご馳走になったものでした。家内が亡くなった後も、しばしば大津からご夫婦で来宅頂き、勇気付けて頂きました。

現役の合宿に参加されたり、OB連中と山を楽しまれ、厳冬期のジャンダルム飛騨尾根を数年掛かって目指されたこともありました。甲南初の海外遠征、カナダ・ロッキー合宿にも参加され、六十台になられても、ダウラギリBCへのトレッキング、ランタンヒマールヤラピーク(5,520m)登頂等をされていました。スキーも50代頃から復活され、ゲレンデスキーヤーの多いOBの中で、数少ない山スキーヤーでした。60代からは石垣島、隠岐島クルージング等、ヨットにも楽しまれ、宮之浦岳は屋久島にヨットで寄港した時に登られました。山に、スキーに、ヨットにと、その人生は自然と向き合われた人生だったと思います。

生前、山の友にお世話になりながら、奔放な人生を送ることが出来、本当に幸せだったと、奥様に仰っていたそうです。晩年は娘さんのご主人と福井県や琵琶湖周辺の山々やスキーを楽しまれ、最期にお会いした時に未だ登りたい山が二つ残っていると言われた山は琵琶湖周辺の山でした。

まだまだ、山やスキー、ヨットの夢を語り、又、過ぎ去りし思い出に浸りたかったです。

心からの感謝とご冥福をお祈り申し上げます。カンさん、本当にありがとうございました。



ホームページに寄せられたコメント

カンさんが亡くなりました。

柏 敏明

今朝、奥様から連絡がありました。森本全彦様が、本日30日の午前1時35分にお亡くなりになりました。ご家族の方々に看取られて、穏やかに息を引取られたそうです。生前、山の友にお世話になりながら、奔放な人生を送ることが出来、本当に幸せだったと仰っていたそうです。今、山岳会の赤いベストが掛けられているそうです。奥様からも、山のおかげで、沢山の方々と交わり、幸せな人生でありました。ありがとうございますとお伝えくださいとのことでした。先日、お伺いした時は血色もよく、まさか、こんなに早くとは思いませんでした。なお、家族葬で行いたいと思っていますので、お見送り、お花、香典等のご辞退申し上げます。との事でした。取り急ぎ、ご報告まで。

かんろく 逝く

廣瀬健三

森本全彦兄も亡くなったとは 寂しい限り。合掌

カンさん 訃報に接して

南里章二

ここの一月ほど訃報が続き、悲しい思いです。カンさんは柏さんの写真を拝見したときにはお元気そうな感じがしていましたが、残念です。50 数年前、私が廃部寸前の高校山岳部を立ち上げた時、すぐに駆け付けてくださいました。その時戴いた数枚の便箋には山の心得がびっしりと書き込まれていました。活動中は大切に使用させていただきました。冬の乗鞍位ヶ原山荘でのスキー合宿でも高校部員のお世話をよくしていただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

カンロクの逝去を悼む

越田和男

本欄への自身による投稿、それに続く柏の見舞い報告から、覚悟の程は伝わってきてましたが、持ち前の気力と明るさから、こんなに早く訃報に接するとは想像してませんでした。実に寂しさ一入です。

現役時代から若手のOB時代にかけての山行では、何かと教えられることが多かった思い出しています。「コッシンそんな事したらあきまへんでー」などとまた言われそうで。

秋の毛勝岳(昭和 44 年)では助けられました。真夜中の大明神沢を無謀にも下降中、平井センキチが落石の下敷きになり大怪我、歩行不能に、そして雨中の惨めなビバーク。明け方にカ

ンロクが独り走り下山して麓の工事現場の飯場に救援を求め、屈強な人夫2名を引き連れて戻ってきてくれたのでした。残されたガチャさんと小生ではどうにもならんとこでした。同行者3名ガチャ、センキチも既に亡く、一番の元気者カンロクまで逝ってしまい、残るは小生のみ。

他にも、今は亡き鶴木と3人で行った秋の奥又白でのキャンプと岩登り、二谷、武田も同行した千丈沢から小槍に登ってその日のうちにキレット越えして涸沢までの縦走など、思い出は尽きず。心からご冥福をお祈り申し上げます。

森本さんの訃報に接して

小西啓右 KGAC

森本さん ありがとうございます。ヒマラヤトレッキング、山スキー、ヨットと何度も同行して頂きました。

温厚で沈着冷静 森本さんがおられるといつも安心感がありました。まだまだお付き合いお願いしたかったのに残念です。ご冥福をお祈りいたします。

かんさんさようなら

浪川純吉

かんさん早過ぎますよ、二人で行った数々の山を思い出し涙が出そうです。初めて行った百名山の荒島岳からヒマラヤまでそれから小西さんのヨット航海楽しい思い出が沢山あります、どうぞ安らかに休息ください。

かんさん、有難う御座いました。

山本恵昭

ここ数年、尊敬する山の先輩方の訃報が続き、寂しい限りです。特に、かんさんとは、沢登りや山スキー、スズコキャンプやカニキノコキャンプなど、色々な山行に御一緒させていただき、楽しい思い出がいっぱいです。12月大雪の遠見尾根で、テントを張り終わり中に入るやいなや、ザックから滋賀の銘酒七本槍の一升瓶を差し出され、皆でザックも開かず靴を履いたままグビグビ吞んだくれたこと。3月の頸城吉尾平ベースで山スキー三昧。5月の海谷高地では巨大な流木で盛大な焚き火。京都五山送り火を大文字の真横で宴会しながら鑑賞したこと。どれも、昨日のことのようによみがえります。そして、私が悩んでいるときには、いつも言葉少なくそっと後押しをして下さいました。柏さんがお見舞いに行かれたときに、かんさんが登りたいと言われていたあと2つの山というのは、どこだったのでしょうか。できることなら、お供させて頂きたかったです。かんさん、有難う御座いました。心よりご冥福をお祈りいたします。

— 会員短信 —

旧制高校

福井 享 (旧制 24 理)

ご案内有難うございます。何分高令にていずれにも出席できません。諸兄によりしくお伝え下さい。

新制高校

北方龍一 (新高 30)

年令相応に元気です。NPOの灘区水車新田に設置した小規模水力発電で連日苦勞しています。

竹原佑爾 (新高 33)

お世話様です。元気にしております。

川村静治 (新高 40)

六甲山ハイキングをぼつぼつやっています。昔に比べて尾根筋が崩壊しているところが多く、谷筋は砂防ダムが増えてやや歩きにくくなったと感じます。

福田裕久 (新高 45)

最近コロナの3回目のワクチン接種を終えました。それにしても次から次へと変異種の生まれること！

松下弘幸 (新高 54)

皆様によりしくお伝えください。

白川浩平 (新高 H2)

高知市内より車で 1 時間位の海沿いの山を買う計画があります。高さ30m位の小さな山ですが頂上に小さな小屋を建てれば、180° 海の展望がある露天風呂を作って…などと夢がふくらんでいます。どうなることやら!!

大 学

行友利安 (大 32 経)

体調悪く失礼いたします。

鈴木頼正 (大 33 経)

年の割には元気です。しかし乍ら物忘れが激しく困っています。忘れない様メモを書きますが忘れることしばしばです。4月6日今年初めてのゴルフプレーをしました。ボールが飛ばなく力が入りすぎスコアが100を超えました。がんばります。甲南山岳会をお世話いただき感謝しています。

麻畠重彦 (大 33 経)

認知症の初期の？の様な症状で毎日こまって居ます。毎年、御連絡いただいて居りましたが、以後、出席出来かねると思いますので、失礼させていただきますたく存じます。いままでありがとうございました。

越田和男 (大 36 理)

コロナ禍をしてウクライナ戦争関連の報道番組が延々と毎日続きうんざりしています。基礎疾患を

かかえた年寄りとして、外出もひかえてしまうと、
つい出不精・巣ごもり・引きこもりとなって、最近
は失語症気味。それでも毎日の散歩は続行。春に
なると花々が楽しいです。

廣瀬健三 (大36 経)

ロックガーデンに行くのは何年振りカナア？身
近な人たちが「亡き数に入り」寂しき限りなり。

田中孜 (大36 経)

体調が悪いので欠席します。

牧野 宏 (大36 経)

趣味の写真の撮影場所を求めて時折ハーバー
ランドへ行きます。絶えずイベントがあり撮影材料
に最適な所です。その折の写真が初春に神戸新
聞社賞を受けました。ついでにビヤホールにも寄
りますがナイスビューでビールがうまいです。

飯田 進 (大38 経)

年は取る取る薬は増える。クスリの飲み忘れと格
闘している毎日です。ご出席の皆様宜しく。

二谷和成 (大38 経)

ここ2年余り新型コロナに振り回されました。老人
仲間との近郊散策も出来ず、やっとな総会で皆様と
会えるのが楽しみです。

武田雄三 (大39 経)

お世話役の皆様、有難う御座います。

村上与利一 (大39 経)

昨年自宅を売却し元町に住むつもりが、建築業

者が見つからず、元町は更地のまま、今は夙川駅
前サンテイズヒルズ夙川のマンションに仮住まい
です。物故者と同年代、体調が？やむをえず欠
席で申し訳ない。

安井 正 (大40 経)

元気に暮らしています。

伊丹徳行 (大40 法)

幹事さんご苦労さまです。物故者名を見ている
と、ああした、こうしたと古い事が目に浮かぶ毎日
です。毎日と言えばコロナの中を循環器科・眼科・
整形外科・糖尿病科・呼吸器科と各病院を廻ってい
ます。

柏 敏明 (大41 経)

いつも幹事様にお世話して頂きありがとうございます。
次々と親しい方が亡くなられ、さみしい限り
です。コロナで葬儀に出られなくなった今、慰霊
祭があるのは有難い事です。相変わらず小西さ
んのヨットでのクルージングと近郊の温泉や名所
巡りを楽しんでいます。

井上 徹 (大41 営)

80を間近にし、伊豆88遍路をはじめております。
伊豆半島の付け根から下田までの各地に点在す
る88寺。想像以上に厳しい所にもあり、特に長い
階段やきつい坂道は肺気腫を患う身にはこたえま
す。学生時代お付き合いいただいた鶴木さん、森
本さん、長谷川さん、横山君、国分君を思いなが
らの遍路です。

頼富信輔 (大 43 法)

いつもご案内ありがとうございます。今回も観光ガイドの仕事が忙しく出席することが出来ません。次回は出たいと思っています。山岳会の益々のご発展を心より祈念致しております。

赤田正和 (大 44 理)

仕事は週3日出勤で続いています。その関係で社有林を巡って多少山歩きはしています。個人的には右まきの活動に参加しつつ、日本の現状を日々憂えています(笑)近き将来、日本が日本でなくならないよう願っています。

石原浩二 (大 44 理)

コロナが収まって、皆様と飲みたいと思っています。

南里章二 (大 45 理)

総会当日、神戸での講演が2時30分までなので、到着が3時過ぎになります。久しぶりに皆様のお顔を拝見できるだけで満足です。

矢吹 操 (大 45 理)

コロナにかかることなく元気でいます。

伊藤辰之 (大 45 営)

元気ですが、出席は無理です。

井上知三 (大 48 文)

元気にしていますが昨年9月に松下哲夫さん(大52理)が亡くなり、10年来の山歩きの相棒を無くし山歩きは全くしていません。以前は2・3か月に一度のペースで彼と六甲・比良山系を楽しんでい

ました。とても寂しく残念です。現在は西脇の武嶋・滋賀マキノ高原で焚き火キャンプに年4回ほど楽しんでいます。

平井幹男 (大 50 文)

ラッキーな事にコロナ騒ぎの前に会社を閉じて無事に過ごしています。コロナが落ち着いたなら、そろそろガンバッテ山に行きたいです。70才を過ぎてから少し体力が落ちました。皆様と早くお会いしたいです。

高橋けい子 (大 50 文)

いつもお世話になっております。15日の慰霊祭の日は夫の23回忌になります。信州佐久のお墓には行けませんが、どのようにするかまだ決まていませんので、総会・慰霊祭の出欠のお返事「△」で申し訳ありません。皆様お元気で!!

中澤章浩 (大 50 文)

足の指を骨折してしまい山靴がはけなくなり少しばかりチャレンジしていた山行きも途絶えてしまいました。更にコロナ禍のため、とじこもり気味です。慰霊登山に出席すべきところ予定が入り勝手致します。霊の安らかならんことをお祈り申し上げます。

村田信一 (大 50 経)

元気に過ごしています。外出が減りネットショッピングやオークションを楽しんでいます。現役時代の登山道具はピッケル・アイゼン・羽毛シュラフと赤いジャージが残っています。ウィリッシュのピッケルは7万円するそうで、飾ってあります。赤い

ジャージは自前で探したもので家族に「古い」と笑われながらも重宝しています。

早川栄二 (大50 経)

体調が悪く欠席します。

渋谷一正 (大51 営)

3月末で退職いたしました。今後は甲南山岳会のお役に立てればと思っています。

西村 清 (大51 経)

山岳会とはスッカリご無沙汰しています。小生と山岳会のツナガリは渋谷・松下との関係でした。しかしその内の一人が欠けてしまい、なんとなく渋谷が頼りのような感じです。嫁も愚痴を言いながらも元気です。

鷹巣久美子 (大51 文)

予定が決まらなくて、遅くなって申し訳ありません。

大柳香代子 (大51 法)

元気ではありますが、ますます歩く速度は遅くなり足は上がりず!(登る)しかし山歩きは楽しいですね。☆15日は渋谷さんと松下洋子さん・娘さんと別働グループでレリーフへ参らせていただく予定です。

松本好博 (大52 法)

元気でやっています。ありがとうございます。南里さんの新刊書、拝見しました。写真が多く色々思い出します。また、世界を旅したいですね

大森雅宏 (大53 文)

ご案内ありがとうございます。令和2年の夏、定年になりました。気楽に遊びまわるはずが世の中色々あってままならず。ロックガーデンがいいお天気になりますように。

鳥井陽子 (大54 文)

ご案内ありがとうございます。5月15日楽しみに伺います。よろしくお願いします。

要 裕晶 (大55 営)

先日、ふらっと献血に行ったら50回目と言われました。健康なうちは続けたいと思います。定年退職後、畑違いの業界に入って3年目、もう暫くフルタイムで働こうと考えています。皆様のご健康を祈念しとります。

住友健時 (大56 法)

元気にしております。今年も帰国の予定はありません。皆様によろしくお伝え下さい。

川野幸彦 (大56 理)

いつもご案内ありがとうございます。ご無沙汰しております。皆様お変わりございませんか。相変わらずコロナ禍で在宅勤務が続いております。ストレスがたまります。登山は近くの低山歩きを楽しんでおります。ただ、体力は年ごとに低下しヒザの傷みが激しいです。盛会を祈念しております。皆様によろしくお伝えください。

山本恵昭 (大56 理)

「またこんど」ということでチャンスを逃すと、もう

次のチャンスはやってこないという年齢になってきたと実感しています。チャンスがあれば、できるだけ体が動くうちに行ってみたい所に行ってみようと思っています

八木 健 (大58 経)

毎回のご準備、ご案内ありがとうございます。膝の状態が良ければレリーフ迄行きたいのですが。どこ迄、行けるか判らないので単独参加とさせていただきます。

西名俊英 (大61 理)

ご案内ありがとうございます。4月から仕事が変わり、2ヶ月間の研修など、慣れない日々を過ごしております。

松山弘和 (大61 理)

返信遅れて申し訳ありません。春は欠席させていただきます。秋は体調が良ければ参加したいと思っています。

藤井琢也 (大H6 法)

特に変わりなしです。

松成 健 (大H8 文)

福島県から北海道に転勤になりました。ほぼ毎年に近く住所変更しておりお手数をお掛け致します。来年はどこに居住しているか分からないので、今のうちに北海道を楽しみたいと思います。

谷 勇輝 (大H20 理工)

御世話になっております。生前お世話になった方々が物故者に名を連ねられており、とても残念

でなりません。昨年11月に次男が生まれ、日々子育てと仕事に奮闘しております。

特別会員

鈴木敬吾 (特別会員)

コロナ禍ですがいつも通り過ごしています。総会当日は予定があり欠席います。盛会をお祈りします。

ご遺族

赤松恵美子様

甲南山岳会のレリーフの写真をお送り下さいまして有難うございました。生前主人は次は自分の番だとお互いに言い合っているのだと申しておりました。何年か前に私も主人と、どなたかの奥様をお連れしてレリーフに行こうとした事がございました。しかし阪神大震災で道が崩れていたせいか尋ねあてることが出来ませんでした。お仲間に入れて頂いて主人も本望だと存じます。共に喜びたいと存じます。山岳会誌に主人死去のご報告をしました時は、大森雅宏様に変にお世話になりました。甲南山岳会の益々のご発展を祈っております。

森本美子様・森本安紀様

慰霊祭への御案内お送りいただきありがとうございます。私宛になっているのを何か不思議な気持ちでながめてます。当日、長女と一緒に参加いたします。森本が晩年、三井寺の山から近江神宮

へくだり医者通いをしておりまして一緒に歩いて
いればよかったと思っております。御迷惑をかけ
ぬよう登るつもりですがどうぞよろしくお願い申し
上げます。

國分眞知子様

慰霊祭の御連絡ありがとうございます。去年8月
28日に亡くなりましてから、早いもので8ヶ月にな
りました。足が皆様について行けるか不安ですが
主人が後から押してくれる気がして参加させて戴
く事に致しました。宜しく願い申し上げます。

松下洋子様

夫が天国へ旅立って7ヶ月が経ちました。もう7
ヶ月なのか、まだ7ヶ月なのか……一人での一日
は長く、骨つぼを振っては「死ぬのが早すぎ」と愚
痴っております。長女と二人で参加予定です。宜
しく願い致します。

乾恵美子様

いつもご案内ありがとうございます。当日、他の
予定と重なり伺うことが出来ず残念です。山を仰
ぎ、御霊が安らかなことをお祈りしております。
年々、足腰に自信がなくなってきましたが、来年
は皆様に同行させていただくことを願っております。

本田依子様からのおはがき



山嶽寮 76 号(前号)の感想をお送りくださいました

2022年度【令和4年】山岳会総会 報告

担当 井上知三

日 時: 2022年5月14日【土曜日】

場 所: 甲南学園 平生記念館

出席者: 鈴木頼正 大33年経 牧野 宏 大36年経 二谷和成 大38年経 武田雄三 大39年経
伊丹徳行 大40年法 塩崎将美 大41年経 浪川純吉 大42年営 赤田正和 大45年理
南里章二 大45年理 井上知三 大48年文 平井幹男 大50年文 渋谷一正 大51年営
大森雅宏 大53年文 要 裕晶 大55年営 豆田隆志 大56年法 山本恵昭 大56年理
川村静治 新高S36年

司会 大森雅宏

1. 会長挨拶 平井幹男

2. 2019-2021年度 事業報告

1) 慰霊祭 平井幹男

【担当の松下哲夫 さん死去の為】

2) 木曽福島 集会 渋谷一正

3) 山嶽寮 塩崎将美

4) 大学山岳部の現状【摂津会】 平井幹男

5) 会計報告 山本恵昭

6) ホームページ 谷 勇輝

各報告は異議なく承認されました

3. 2022年度 事業報告

1) 慰霊祭 平井幹男

本年度物故の方々

故 森本全彦 様【大 S39法】

故 國分廣昭 様【大 S43経】

故 松下哲夫 様【大 S52理】

2) 秋の集会 渋谷一正

3) 山嶽寮発行 塩崎 将美

慰霊祭・秋の集会は2年振りの開催とする、山嶽寮は例年通り発行する

4. 議事並びに報告事項 平井 幹男

1) 繰越金と会費について

2年間のブランクに付き遡らずに本年度分のみ徴収

2) 山嶽寮の今後の発行について

山関係でなくあらゆる分野の原稿を集める

3) 慰霊祭の今後と名板取付け及び管理について

後継の担当者・管理が難しいので、年内に銘板保有者に連絡を取り来年の慰霊祭にて銘板を設置

4) 摂津会への今後の参加

現在、平井会長が出席をしておりますが部員もここ数年不在でありまた、内容が戦績発表・グラント調整など当会とはそぐわず経費の面で脱会としたい

5) 山岳会100周年と山岳会の今後について

2015年【H27年】に90周年記念行事を行い2025年が100周年

100周年記念行事を行う場合、委員会を立上げて90周年と同様に学校で行う
尚、費用についてはその時点の山岳会費を使用する

6) 山岳会の年間行事について

ホームページに SINE 1923と記載があり、会長をはじめとする世話役は100年を区切りに
2023年【令和5年】で退任する

新しい執行部・世話役を選出する

7) 山岳会 ホームページについて

ホームページは存続しますが現在の掲示板については8月1日【月】をもってサービス終了
のため新しい掲示板運営会社と早急に契約したい

令和2年度 会計報告

ホームページの掲示板について

総会報告にもありますようにホームページの旧掲示板がサービス終了となりました

7月から新掲示板

<https://rara.jp/konanalpine/> に移行しています

ホームページからリンクします 画像は6枚添付できます

旧掲示板は川村会員のご尽力で「掲示板アーカイブス」から閲覧できます

慰霊祭

コロナの影響で3年ぶりの開催。当日(5/15)日曜日は山歩きには最適な曇り空でした。個人の体力に応じて、集合時間を分けて阪急芦屋川に集合。3つのグループでそれぞれにロックガーデンの慰霊碑に向かいました。12時過ぎには皆がレリーフに集まり、例年通り、黙祷の後、部歌を斉唱、食事、記念撮影終了後、現地で解散いたしました。例年になく多数の下記参加者となりました。

ご遺族の方々

森本美子様・森本安紀様・國分眞知子様・國分俊夫様

松下洋子様・押切知恵様【松下さんのご長女】

ご参加の皆さん

牧野宏さん・浪川純吉さん・南里章二さん・平井幹男さん・村田信一さん

高橋けい子さん*・西村清さん・渋谷一正さん・大柳香代子さん・西村綾子さん

大森雅宏さん・鳥井陽子さん・要裕晶さん・豆田隆志さん・山本恵昭さん

川村静治さん・井上知三

以上23名

*高橋さん 高座の滝お見送り

投稿者:井上知三 投稿日:2022年5月21日

ホームページ掲示板から引用



ー ホームページから ー

牧野さんの 「神戸にしひがし・兵庫みなみきた」

山麓リボンの道

牧野宏 : 2021 年 8 月 3 日

別段トレーニングもしていないが、ワクチン接種
2 度目が終了したので少し歩いてみるか。

と軽い気持ちで『山麓リボンの道』スタート。

2021 年 7 月 29 日

神戸市の予想気温 33℃-27℃ 快晴午後曇り

05:53 JR 舞子駅乗車

06:30 甲南山手駅から山麓リボンの道
スタート

08:30 中野鷺ノ宮神社

岡本の藤安賢一君宅ピンボ〜ン♪
応答なし残念!

08:40 平生記念館

08:50 結弦羽神社

10:30 護国神社

15:30 布引の滝

先を急ぐので茶店には寄らず。
布引の滝の茶店は、従妹の友人が
営んでいて、布引にはこの一軒し
が残っていない。また後日の楽し
みに…。

16:00 諏訪山

花とみどりの推進センター

16:30 兵庫区

いちばギャラリー侑香で珈琲
江戸〜明治初期の神戸の紳士録、
兵庫津の住宅地図に関しご興味お
有りの方ご一報ください。資料ご
送付いたします。(10 年前に侑香
で入手した資料のコピーです。)

18:20 須磨区に入る

須磨区はこんなにも広がった?

21:00 東垂水

22:30 西舞子六神社 リボンの道ゴール

23:00 自宅着

食事をしようと思っていたファミリーレストラン
が退店していたり、思い描かなかった事が多々あ
り、予想外の時間をかけて完歩しました。食事代
わりのエネルギー源は、孫直伝? 忍者めしとスポ
ーツドリンク、重宝しました。

『神戸山麓リボンの道』起終点 甲南山手〜西舞子 全
長約 4.5km。次回は逆のコースで!!



城崎への道

牧野宏 : 2021 年 11 月 24 日

新型コロナの規制が取れたので中学 2 年の孫 (Y) と城崎温泉へ歩いて来ました。

*11 月 12 日 (金)

舞子ー学園都市ー市埋蔵文化財センターー
西神中央駅ー三木

アーバンホテル三木 ① 泊

*13 日 (土)

小野ー滝野社ー加西北条

生野街道、銀の馬車道をひたすら歩く。Y
のスマートフォンの指図が私の 2 万 5 千
分の一の地図より遥かに優れているので Y
にリーダー交代

ルートイン加西 ② 泊

*14 日 (日)

福崎ー加西ー生野

加西の石佛 五百羅漢ー円山川リバーサイ
ドラインー日本遺産銀の道ー辻川観光セ
ンターー生野



Hotel Monte Rosa ③ 泊

*15 日 (月)

生野ー和田山

生野銀山へタクシーで (徒歩ルートをはず
れる観光は時間節約の為にタクシーで)。

私は赤いヤッケを着ていましたがトラッ
ク避けに必須

ホテル Ikue ④ 泊

*16 日 (火)

八鹿ー豊岡ー城崎

下市川沿いに紅葉を満喫しながら熊注意
の看板あるが只々歩く。円山川に出てこ
うのとり 10 羽と対面、ここのとりセンター
の話では 100 羽生息している由。

玄武洞 安国寺へタクシーで。西村屋招月
庭に女房の出迎へあり連泊。15.9kmの疲
れを取る。

西村屋招月庭 ⑤ 泊

① ② ④ ちゃんとしたビジネスホテル。

食事は予約しておかねば食いはぐれる。

毎日コンビニが命のもと

③ 3 年前ススキを写しに砥峰高原への途
中気に止めていた。相客 2 組のみ、フレ
ンチでワインがすすんだ。

⑤ あるじの弟、西村理さんと旧知の友
県民割補助金の最終日で大助かり。



おまけの写真は出石城の紅葉

“また来んせえな 但馬に”

シゲアキさんの「北アルプスまとめて8題」

西穂高岳

山本恵昭 : 2021 年 4 月 1 日

3 月 30、31 日、新穂高ロープウェイ利用で、西穂高岳に行ってきました。30 日ロープウェイをおりると 2156m。そこから、1 時間ほどで西穂高山荘。小屋前にテント設営。時間を持て余し、ワンカップ 500 円を買う。異常気象、暑すぎる。テント内では、半袖。黄砂でどんよりと。雪を溶かすと、水が黄色い。31 日夜半、月明かり快晴！ヘッドランプをつけて、5 時に出発。焼岳、乗鞍岳がオレンジ色になり、明神の山々から太陽が飛び出した。西穂高岳山頂 7 時半。風はあるけど、寒くない。しばし、景色を堪能。サクッと降りて、無料露天風呂、荒神の湯で汗を流す。異常な暑さでした。この調子だと、夏はどうなるのか心配です。

越田和男

3 月の西穂にいとも簡単に登ってくる体力、気力に羨望。西穂小屋から西穂山頂まで 2 時間半とは、相変わらずの健脚ぶりですね。それにしても、北アルプスの雪にまで黄砂の影響が出ているのには吃驚ですが、以前からこんなことはあったのでしょうか。異常気象も気になるところ。

山本恵昭

最初は、またスキーで槍ヶ岳飛騨沢に行こうと思っていました。しかし、あまりの高温予報に、雪崩リスクを避けて西穂高岳に変更しました。今年は、思わぬところで雪崩事故が起きています。夏の大雨もそうですが、異常気象のため、自然現象の予測が難しくなっています。これからも慎重に山を楽しみ

たいと思います。コロナ自粛でも独りで近場をうろろしていたので、思っていたより動くことが出来ました。でも、重い荷物は久しぶりだったので、肩や腰が痛かったです。30 日は、ひどい黄砂で空がどんより。笠ヶ岳が霞んでいました。雪を溶かして作った水は黄色い。こんなのは、初めてです。



南岳、北穂高岳

山本恵昭 : 2021 年 8 月 10 日

ちょっと粹狂な山行きを楽しんできました。槍穂に挟まれた南岳。そこにテントを張って、朝夕絶景三昧。景色を眺めているだけではボケが進むの

で、キレット往復して、北穂高岳へ。一粒で二度美味しい、岩稜三昧。8月5日新穂高から槍平経由で南岳新道に取り付く。噂に違わぬ劇登り。南岳キャンプ場にテントを設営し、南岳山頂へ。ちょうどガスが晴れて、雲の下から太陽が現れた。槍穂高はもちろんのこと、笠ヶ岳、双六岳、大天井岳、常念岳と絶景。雲が湧き上がったり消えたり。夕日に照らされて、山々が次第に赤く染まる。この景色が見たかった。日が沈むまで、2時間ほど山と雲を眺めて過ごす。6日、4:30発で北穂高岳往復。キレットを下った頃に、常念岳の横から日の出。北穂高岳が赤く染まる。岐阜県警のヘリが、滝谷で何度もホバリング。帰宅してから、ドーム中央稜でガイドが亡くなれたことを知る。北穂高岳山頂には、涸沢からの登山者が次々と。若い人から山の名前を聞かれて、「あれが黒部五郎で、あっちは薬師岳」「なんでそんなに分かるのですか」「そこら中、行きまくったから」「なるほど」昼前、南岳のテントに戻るが、暑い。小屋前の日陰のテーブルで、雲を眺めながら2時間かけてコーヒーとクッキーのランチ。青空に絹雲が近い。ここでもう1泊する予定であったが、台風の影響が出る前に槍平まで下ることにする。予定していた天狗池はお預け。往きが劇登りなら、帰りは当然劇下り。槍平キャンプ場は、水が使いたい放題。服を水洗いしたが、夕暮れまでに乾かなかった。7日奥丸山山頂まで登って、朝食。360度山々山。槍穂の迫力。鏡平が近い。西鎌尾根を超えて雲の滝が落ちる。槍平からさっと下り、昼前に新穂高。自分でもバカやなと思いながらも、「あ〜、面白かった！」



飯田進

この写真南岳、昭和34年8月3日に撮ったものです。貴兄の登られた日にちとあまり変わらないと思いますが、雪田の状態変わってると思うのですが、如何ですか？



山本恵昭

南岳小屋から山頂の間には、このような雪渓はありませんでした。南岳のどちらの斜面でしょうか。もしかして、南岳の北の中岳でしょうか。南岳西面、南岳新道の途中にも小さな雪渓がありました。北面は今回覗いていないので、残念ながら飯田さんのお写真と比較できません。昨冬は雪が少なかったもので、どこの雪渓も小さいようです。それにしても、昭和34年ということは、私はまだ1歳。そんな頃から槍穂の峰々を闊歩されておられたのですね。凄いです。

早月尾根から剣岳

山本恵昭 : 2021年10月4日

9月に、1泊2日で早月尾根から剣岳に行ってきました。よく行ったコースのつもりが、イメージが違う。思えば、バリエーションを登った後の下山路としてばかり。しかも、雪のある時期。緊張感から解放され、難所は懸垂下降でスルスルと、あとは雪の下りでサクサクと。こんなに梯子や鎖場、アップダウンがあったなんて。9月19日9時に馬場島駐車場に着くと、すでに満車。かなり下の駐車場まで車がいっぱい。テント場確保のためハイペースで先行者を追い越し、心臓バクバク、足ガクガク。早月小屋に13時過ぎ。テント場は大混雑。ビール飲ん

で昼寝をして、復活。小屋前の丸山で、山眺め、雲眺め。雲海に猫又山が浮かぶ。北方稜線や小窓尾根を目で辿りながら、一緒に行った仲間や亡くなった先輩を思い浮かべる。やがて、富山平野の雲海に夕日が沈む。20日夜半にワンデイ登山の人の靴音に目覚めた。仕方なくヘッドライトをつけて3時半に出発。6時半に剣岳山頂。山上部分だけガスに包まれて、展望無し。

頭の上は晴れているので、久しぶりの景色を期待してしばらく待ってみる。7時頃、ソクソクと人が登ってくるので、鎖場渋滞に巻き込まれないように急いで下山。テントでスープを作って、ゆったり水分補給。ストックに体重を預け、苦行の下りで、馬場島に14時着。膝から汁が出てきそう。





猫又山で剣岳眺め

山本恵昭 : 2021 年 10 月 30 日

この時期、秋と冬が日替わりで入れ替わる。山に持っていく装備選びが悩ましい。29 日金曜の深夜、秋用装備と冬用装備を車に放り込んで、とりあえず出発。30 日土曜朝、馬場島につくと、周りは赤や黄色の木々、山の上は白い雪。結局、適当にミックスして重荷に耐え、ブナクラ峠経由で猫又山山頂にいます。期待通りの息を呑む絶景！素晴らしいです。



大猫山で剣岳眺め

山本恵昭 : 2021 年 10 月 31 日

猫又山山頂のすぐ横で、テント泊。31 日日曜、鹿島槍辺りからのご来光に燃える剣岳。

大猫山へ向かう間も、ずっと剣岳がお供。根雪というには頼りないクラスト雪で、ザクザクズボのズボに苦勞する。ここからは、劇下り。大猫平でちょっと休憩。そして、また劇下り。最後は、赤や黄色の彩りで木々が迎えてくれた。なかなか、変化に富んだ山行きでした。





空木岳、久しぶりの本格的冬山

山本恵昭：2022年1月10日

この連休は、絶好の山日和。年末の寒波で断念した空木岳に。8日、駒ヶ根高原スキー場の駐車場に車をとめて、7時過ぎに出発。快晴のもと、林道終点は南アルプス展望台。池山避難小屋分岐、マセナギ、大地獄小地獄の鎖場と順調に。ヨナ沢の頭でテント泊の予定だが、この調子だと空木平避難小屋まで行けるかもと思ったのが甘かった。ヨナ沢の頭へ夏道を辿るが、怖いくらい急な樹林帯のトラバース。そして、サラサラ雪の底なしラッセル。何度も踏み固めて、そっと体重を乗せる。大丈夫かと油断すると、ズボズボと腰まで埋まる。この雪の中、転けたら立ち直れない。ストックでなんとかバランスだけはキープ。そうこうするうちに、とうとう日が暮れた。ピンチのはずなのに、悲壮感はない。逆に、ヘッドランプをつけて淡々と作業を繰り返し、遅々たる進行を楽しんでいる。18時過ぎに、ヨナ沢の頭の尾根に出た。倒木の横を整地して、テントを張る。9日、この先も昨日のような雪質ならもう下山しようと思うと気合が入らず、朝は

ダラダラ準備。幸いそこそこクラストしているので、7時半に山頂を目指して出発。駒石辺りは風が強く、ときどき耐風姿勢。不思議と、駒峰ヒュッテは風がない。一息入れていると、山頂にかかっていたガスが晴れた。11時、空木岳山頂は絶景。木曾駒ヶ岳からの稜線が美しい。南駒ヶ岳方面は凜々しい。そさくさと下山。朝のダラダラが祟って、テントに13時。予備日を1日設定しているが、下れるところまで下ることに。心配していたヨナ沢の頭のトラバースは、今日登ってきたパーティに踏み固められていた。池山避難小屋分岐で日が暮れた。小屋に泊まろうかとも思ったが、惰性で下る。ヘッドランプをつけると、雪道は明るい。林道終点からの夜景が美しい。ひたすら下って、駐車場に19時45分。2日続けて12時間ほどのヘッドランプ行動、本気のラッセル、耐風姿勢、指先がピリピリする寒さ。久しぶりのなんだか懐かしい感覚に、疲れも吹き飛ぶ充実の山行だった。





槍穂高を眺めに、常念岳へ

山本恵昭 : 2022年2月13日

雪の槍穂高を眺めに、東尾根から常念岳へ。以前、5月に燕岳から蝶ヶ岳まで縦走したときに、何時間も見惚れていた槍穂高の景色が忘れられず、厳冬期に行ってみようかと。でも、じっくり眺めるには寒すぎた。2月11日朝、須砂渡ゲートに着くともう車が10台ほど止まっている。駐車スペースを確保のため、スコップで雪掻き。南岸低気圧による積雪があり、ラッセルが心配だったけれど、これだけ先行者がいればトレースバッチリ。2178mピークを超えてすぐにテント設営。この辺りは、平坦な樹

林帯の中の人気スペース。本日は、8張りほどのテント団地。12日、ヘッドランプをつけて6時前に出発。樹林帯を抜けて少し登ったところで、日の出を迎えた。簡単な岩場を超えて前常念岳まで登ると、風が強い。晴れているけど、地吹雪。稜線越しに、穂高の絶景が姿を見せる。常念岳山頂だけ、風が少しマシであるが寒い。スマホを操作している指先の感覚がなくなってくる。期待した通りの絶景が目の前に広がっているのに、じっくり味わう余裕なく早々に下山。テントを撤収してひたすら下り、須砂渡溪ゲートに16時。安曇野は、山屋には便利。ゲートから1分ほどで、ほりで一ゆ〜四季の郷の温泉。10分ほどで、大型スーパーマーケットのベイシア、すぐ隣にガソリンスタンド。その途中の電線に、オオタカがとまっていた。自分では結構良いペースで歩いているつもりだけれど、入山も下山も数パーティに追い抜かされた。荷物が重いのか、体が重いのか。いや、ここは素直に歳をとったことを認めよう。でも、前常念岳のちょっとした岩場では、戸惑っている人を横目に、スタコラサッサとお先に失礼！昔とった杵柄はまだ健在なのだ！





風吹大池からフスブリ山と赤禿山。 猫鼻温泉三昧。

山本恵昭 : 2022 年 3 月 31 日
3日間晴天周期のタイミングで、黒負山～朝日岳
～蓮華温泉の2泊3日スキーツアーを計画したつ
もりだったけれど。3月28日早朝に木地屋に着く

と、何故か激しい雨。車の中で待機していると、11時頃になってやっと小雨になってきた。とりあえず行ける所までと、出発。ひと山越えて大所川近くまで滑り下りてみたが、その先の林道トラバース斜面を見て諦めた。雨を吸って、今にも底雪崩が起きそうだ。木地屋に戻り、意気消沈で以前訪れた猫鼻温泉に。以前焼失したと聞いていたが、再建されていた。バラック建ての休憩室を覗くと、常連さんに混じってここの主、91歳の清水住職がいた。風呂あがりに雑談に加わっていると、住職からここに泊まっていけと。糸魚川まで食材を買い出しに行くと、住職は留守番頼むぞと言って帰ってしまった。休憩室で寝袋に入ってゴロゴロしていると、夜になっても色々なお客が訪れる。車中泊いくらですかとかビール下さいとか、ここの人と間違われながら成り行きで対応。結局、ここに素泊まり2泊することになった。29日、日帰り、風吹大池経由、フスブリ山へ。晴れの予報だったのに、曇り空。昨日の雨は上の方では雪だったようで、硬い雪に新雪が乗ってちょっぴりラッセル。複雑な地形を読みながら、最後は雰囲気の良い谷を詰めて風吹山荘に。さらにゆるい尾根をフスブリ山へ。白馬乗鞍岳、雪倉岳が目前に。行くはずだった黒負山から朝日岳の稜線を目で追う。この辺りの斜面は、スキー天国！風吹大池に雪洞でも掘って、のんびりスキー三昧も良いだろうな。下る頃には雪も緩み、快適に滑降。日帰りなので荷物も軽いい感じ。登り6時間、下り1時間半。スキーは速い！というか、登りが遅すぎか。再び、猫鼻温泉。温泉三昧、住職や常連さんと雑談、糸

魚川買い出し、ひとり宴会、夜のお客対応。30日、最終日になって、やっと快晴。ショートコース、赤禿山に。緩い疎林の尾根を登る。右寄りに行くと、明星山がドーン！日本海も見える。左寄りに行くと、木地屋の里の向こうに白馬岳北側の峰々が白く眩しい。そして、振り返ると、頸城の怪峰達が聳えている。それにしても、暑すぎる。山頂から急な北斜面が人気だが、この気温では立ち入らないほうが無難。のんびり景色を堪能しながら、尾根を忠実に滑り降りる。またまた、猫鼻温泉で汗を流して、帰途に。帰りにちょっと寄り道、海岸で石ころ集め、ヒスイ探し。これも楽しい。当初計画の黒負山～朝日岳のコース。フスブリ山や赤禿山から眺めながら、「また今度行くぞ」と言いたいところだが、「また来年」というのが言えない歳になってきている実感。日帰り山スキーand 温泉三昧も良いのだけれど、またチャンスが作れるように、日々寛やかに精進しようっと。



南里さんの近著 「世界史を歩く 一新全世界紀行一」

南里章二新著『世界史を歩く』

越田和男 : 2021 年 12 月 13 日

待望の全世界紀行第二弾が上梓されました。世界 194 カ国を踏破直後の前著『全世界紀行・民族と歴史、そして冒険』(ナカニシヤ出版、2003 年)から 18 年。その間も 80 カ国を超える旅を続け、今回はコロナ禍の巣ごもりを活用しての、大冊の執筆は流石のもの。南里章二著『世界史を歩く 一新全世界を紀行一』ナカニシヤ出版 2021 年 11 月 30 日 475 頁 定価(本体 3000 円)序文に「このたびは、国境を越えた広い地域の歴史をブロックごとに捉え、それらの相互関係を自身の旅の体験でつなぐ形式にした」とある。自身の見聞と、痒いところに手の届くような適切な歴史解説のバランスが良く、自身撮影の写真も豊富、地図の添付も適切、アフガン、チベット、中東、新疆ウイグルなどの問題地域の描写もアップデートされており有難い。

「前著と同じく、どこから読んでいただいてもかまわない」とあるので、筆者はワクワク感のある「中央ユーラシアの世界」、そして「チベット世界を歩く」から読み始めた。こんな内容です。甲南山岳会の諸兄も興味津々では。

第六章 中央ユーラシアの世界「シルクロード」をとりまく国々

1 新疆ウイグル自治区からパキスタンとの国境

へ

- 2 仏教伝来ルート
- 3 アフガニスタン再入国
- 4 北インドーベシヤワルからアグラへ
- 5 中部インド、宗教芸術をめぐる旅
- 6 仏教四大聖地を巡る

第七章 チベット世界を歩く

- 1 ザンスカール
- 2 チベットの歴史
- 3 聖山カイラスをめざす
- 4 カイラス山周遊

書架において時折拾い読みもまた楽しからんと思う。お勧め本です。先ごろ亡くなられた雨宮宏光さんが「南里、次の本はいつ出すんや」と心待ちにされていたのに残念。

読みました。

渋谷一正 : 2022 年 1 月 18 日

南里先輩の本、読みました。お正月にアマゾンから届き、さっそく読みました。先輩が現地に行かれて、書かれた文章と 長年、教鞭をとられた経験による知識の蓄積が重なり一味違う歴史を感じました。面白かったです。もう一回初めから読もうと思います。

(無題)

鈴木頼正 : 2022 年 1 月 20 日

今日 1 月 20 日大阪梅田の紀伊国屋書店で、南里章二先生の本、世界史を歩くを本を購入しました帰り JR の中で本を開くと、未知の歴史が丁寧に、わかり易く書かれていました、ゆっくり読ませていただきます。

世界史を歩く

飯田進 : 2022 年 3 月 23 日

南里先生、遅まきながら読ませていただいています。コッシン推奨の拾い読みで。懐かしいカシュガルから、ススト、チャブルサン川、そして聖者バーバグンデいの祭ってあるジーアラット。小生ギーアラットからズイウルド、イルシャッド BC まで二日間馬に乗っての楽しい旅でした。ところで案内人のシャヒーンですが。小生ゴンドコロピークに行ったとき・シムシャール出の新米ポーターで、シャヒーンという若者を雇いました。体格のいい気のいい男で、ビッケル持っていたので、使い方知ってるか？と聞いたら、知らない。そこで急斜面に連れて行って、滑れ、止まれ、と現役時代散々やったストップ練習をやらせたら、すばやく習得して、ゴンドコロピークの天辺までついてきた。そのご8000m峰に登ったと聞いていたので、ひょっとすると貴兄の雇ったシャーヒーン、同じ男では？ないかいな、と思って。もっともシャヒーンて名前ありふれてるから、違うかも。まあ春の夜長ゆっくり読ませていただきます。

南里章二 : 2022 年 3 月 23 日

ご購入ありがとうございました。飯田さんがおっしゃるシャヒーンは文中に出てくるシャヒーンと十中八九同一人物だと思います。本人がシムシャール村出身で、ガッシャーブルムⅡに登頂したと言っていたからです。30 代前半で、体格が良く安定感のあるガイドでした。奥さんが反対するので登山ガイドの仕事は 40 歳までにしたいといっていました。あれから約 20 年、今どうしているのでしょうか。



山行と集いをメインに

2021年4月～2022年3月書き込みから

後山と駒の尾 : 山本恵昭 : 2021年 4月13日

4月10日岡山県美作の後山キャンプ場でキャンプandバーベキュー。落ちていた枯木で焚き火。11日キャンプ場横の登山口から、劇登りで主稜線に。右に進み、まずは後山往復。岡山県最高峰とのこと。快晴の中、県境尾根が見渡せる。氷ノ山山頂部だけ、雪が残っている。来た道に戻り、稜線をさらに進んで、駒の尾山頂。ストーンサークルみたいになっていて、休憩に最適。南尾根を下って林道を辿り、キャンプ場に戻る。霜柱ができるほど寒かったですが、快晴の中、変化にとんだコースを楽しみました。



信濃 : 飯田進 : 2021年 4月27日

東京で蔓延しているコロナから逃れて、清楚な信濃路水芭蕉を求て行ってきました。つがいけの落蔵湿原、戸隠自然園 妙高いもり池と白い花が一ぱい咲いていました。写真は、菱が浮き出ている、五竜。戸隠、いもり池よりの妙高。信濃路は爽やかで、ストレスをほぐしてくれました。



裾花峠から、パノラマ : 米山悦朗

: 2021年 5月 1日

飯田さんと一緒に行ってきました。快晴でした。



甲窓に山岳部記事 : 越田和男

: 2021年 6月24日

近着の同窓会誌『甲窓』第64号(2021)の「旧制甲南会」の欄(80～81頁)に【旧制甲南山岳部物語】という記事が掲載されています。筆者福井俊郎氏(旧制26回理・阪大名誉教授)は山岳部OBではなく、古い部報『創刊号』(1927)や『山嶽寮・甲南山岳部創立75周年記念号』をもとにして書かれたとのこと。古い写真5葉とともに、約1ページに創部から新制甲南大学山岳部への引継ぎまでの27年間を要点を外さず簡潔に纏められています。

古い山岳部OBの殆どの方々が既に亡くなられて、この一文をお読み頂けないのは残念なことですが、後継者各位は山岳部の部外者による賛辞を込めた論評を是非ご一読ください。

山が好きになった : 鈴木頼正

: 2021年 7月24日

戦後、旧制茨木中学校に入学、昆虫趣味の会

に入り、比良、大山にゼフィルス(ミドリシジミ)を追っかけ、中2の時仲間3人と松本地方電鉄に乗り、岩名止でテントを張りましたが大雨に遭い、小屋に逃げ込みました、そこイワナの燻製をいただき、翌朝峠を越え明神池、夏沢でテントを張り、次に槍沢を超え殺生小屋近くで、夏テントはあまりの寒さで小屋に逃げ込藻ましたが既に満員、しかも目刺し寝(頭と足が交互)翌朝槍ヶ岳に登り、大天井が岳から最高の気分で縦走中、営林省の役人さんに会い、国立公園で植物、動物は勿論昆虫採取は禁止ですと注意を受け、すでに採集の蝶は返さなくてよい言われました。雷鳥の親子ずれが榛松の中をゆっくりと歩いていました。よる遅く常念小屋に着き、疲れてぐっすりと寝ました。翌朝筵の上をノミがびよんぴよんと跳ねていました。水汲みは谷間まで降りなければ。翌日火山灰の山を下りました。昔の思い出です。

山王谷 沢登り : 山本恵昭 : 2021年 7月24日

暑い夏は沢登り！大森さんと鳥取県佐治川山王谷に行ってきました。最初は木曽方面に行く予定でしたが、雷雨予報のため行き先変更。7月22日、佐治川の北谷に入るつもりで、現地へ。でも、工事中で入れない。再度変更し、隣の山王谷に入ることにして、駐車場泊。23日、山王谷キャンプ場から遊歩道で山王滝。中々立派。大高巻きに苦勞。高齢者パーティーなので、ロープも出して安全第一。山王谷の上は、トロッコの索道をたどり徒渉を繰り返す。二股は左股に入

る。滝を登ったり水流をくぐったり、夏向きで楽しい。最後は右岸の枝沢を辿って林道に出る。涼しい沢の天国から、猛暑の林道地獄。なんとかキャンプ場に戻る。なんだかんだと、楽しい休日でした。



昔の思い出：鈴木頼正：2021年 7月30日

昭和32年の春山合宿(剣西面)をやっと終え、上市から地鉄に乗り富山駅に着き、国鉄で金沢、福井、敦賀、京都から茨木の自宅に帰りました、炬燵に足を入れぐっすり休もうとした時学校から電話があり、リュックを其の儘ま担いで大阪駅に來いの連絡、下着、食料を詰め込み、そのまま富山に行き上市からゾロメキ発電所を超え現地 にに到着。遭難の様子は昨夜遅く麻畠、竹中、福永がテントを出発、竹中がトップ麻畠、福永と

続く、ルンゼから足を滑らし雪崩を引き起こし三人は雪崩に巻き込まれ、麻畠、竹中は意識を取り戻し田が福永は倒れたまま、頬っぺたを叩くが反応なし、麻畠がベースキャンプに向うが途中で力尽き、竹中がテントに向かった、ベースキャンプの周りは雪が解け、テントは二メートルの上にあり、何度もオーイと叫び、近くで合宿していた西京大学の応援を得て遭難地点に向かうが、新雪で足跡が消え遭難現場に到着できなかった。5月に大窓雪溪の下で前田進君とテントを設営し2週間余り搜索した、一時食糧難に遭い、鉄砲水でテントを上にあげたり大変でした。先輩の福田さんも駆けつけて頂きました。北陸電力の方々にお世話になりました。搜索に懸命のあまり学校の勉強は卒業前に専門科目が三科目(三単位)足りず、論文提出科目を探しやっと卒業できましたが万一留年になれば就職先もダメ、授業料も年40万円と必死の思いでした。授業料は甲南は年間40万円で日本で一番高いときでした。私は前期20万円、後期20万円と二回に分けて納付していましたが後期の20万円が締め切り間に合わず翌日に納付したところ単位は全部取り消されました、山本先生も掛け合って頂きましたが駄目でした、追試験の格好でまた論文提出で何とか卒業出来ました。卒業式に名前を呼ばれやっと安心と親に怒られずに済みました。

デカブクの事：鈴木頼正：2021年 7月31日

福永君の遭難後、福永家を訪れ、ご尊父にお会いしました。広大な屋敷、いつも裏庭から座敷

に上がりお話しする機会がありました。また弟も甲南高校の山岳部で2度ばかり合宿先で逢いました。福永家は満州国の溥傑、溥儀(愛新覚羅)の血筋で、後日、弟が中国を訪れ、歓迎されているNHKのニュースを見てびっくりしました。山岳部の部室前に阿部、柳沢、柏等との集合写真に背が高く、がっちりとした体格の福永君が写っています。合宿のボッカ時リュックの上にサラに荷物を担いでくれました。

氷ノ山 神大ヒュッテ : 山本恵昭

: 2021年10月11日

氷ノ山 神大ヒュッテの点検 + 山頂の御来光 + キノコ偵察10月9日大段が平から神大ヒュッテへ。点検と簡単な補修をしながら1泊。鍋の夕食の後、わが家産の柴栗を薪ストーブの入口付近に焚べて、焼き栗に。ワイン片手に、チマチマと焼き栗の皮むき。長い夜を過ごすにはちょうど良い。煙たいけれど、いつ来てもこの薪ストーブに癒やされる。時々、外へ出て星眺め。10日5時発でヘッドランプをつけて山頂へ。吹き飛ばされそうな強風。山頂の避難小屋に逃げ込むと、5人ほどが寝ていた。起こしては申し訳ないので、外に出てベランダの風下側へ。彼方の雲の上が白んで、次第に赤く染まる。そして遂にオレンジ色の光の矢が射し込んで来た。その変化をずっと眺める至極の時間。神大ヒュッテに戻って、ゆっくり朝食。さりと下って、キノコポイントへ。時期的にはナラタケの最適タイミングと予測していたが、全く無い。暑すぎ、乾燥し

すぎ。いつもなら大きなのがいっぱい生えて、威圧感一杯のツキヨタケも、単発で寂しそう。ナメコの幼菌とブナシメジが少し。一雨降ると、いっせいに生えてくるのかな。帰り道、24時間営業のスーパーで今が旬のベニズアイガニを買って、家での夕食にプチ贅沢。残念ながら、香住鶴ではなく発泡酒ですけど。ズワイガニ漁の解禁は、毎年11月6日。それまでは、ベニズアイガニ！



11月6日保久良へ！：安井 正

：2021年11月 2日

今のところ、コロナも落ち着いています。紅葉には少し早いですが、久しぶりに一杯やりながら、亡き方々を偲びませんか？昼頃から、弁当・飲み物持参にて。二次会は「八丁目居酒屋」へもどうぞ。

保久良山、その後：山本恵昭

：2021年11月 7日

6日安井さんから声をかけて頂いた保久良山の会。梅も紅葉もなくとも、久しぶりに皆様のお元気なお姿と会話で、楽しかったです。その後、大森さんに付き合っていていただいて、焚き火キャンプ。いったん岡本に下山して買い出し。芦屋に移動して、高座の滝上のダムでテント設営、なんとか暗くなる前に薪集めも完了。とりあえず、夕食を済ませて、ウィスキーを片手に盛大な焚き火。何もないけど、満たされた時間が過ぎてゆく。やがて、チロチロと熾き火になっていくのも、人の一生と重ねて趣き深し。7日朝にイノシシ親子がブヒブヒと登場。食べごろサイズですが、暖かい気持ちで見送る。せっかくなので、地獄谷経由で万物相へ。直登出来る小滝が連続、ザラザラ万物相でちょっとスリルを楽しみ、岩の上でのんびりと景色を眺めて過ごす。涼しい風が気持ちいい。金鳥山に向かう道から離れて、八幡谷に下る。よく整備された道ができている。甲南バットレス下のダムは、砂地などなく藪に被われて、キャンプできる状態ではなくなっていた。重

い足を引きずりながら、岡本に下山。



扇ノ山 キノコ様子見：山本恵昭

：2021年11月14日

13日、出遅れているナメコの様子を見に、扇ノ山へ。冷え込んで、コケも落ち葉も凍りついている。いつものポイントを巡るが、11月半ばというのに米粒サイズや豆粒サイズで、がっかり。意地になり、笹ヤブを漕ぎ泥壁を登って、森の奥深く右往左往。リスがブナの実の朝食中。今年はぶなの実が豊作だったようで、殻がいっぱい落ちている。鹿が驚いてしばらくフリーズ、そして走り去

った。ご新規ナメコポイントをいくつか発見。ちょうど良いサイズも、そこそこ収穫。ブナジメジやムキタケ、ヒラタケも。何故か、10月によく採れるクリタケが沢山採れた。やっぱり、1ヶ月ほど季節が遅れている様子。でも、もうすぐ雪に覆われてしまうだろう。下山後は、カニを仕入れに浜坂へ。いつものスーパーに行くが、松葉ガニが7000円。高くて、手が出ない。例年だと、2〜3000円くらいで買えるのに。諦めて、セコガニで我慢。これも、例年の倍近い値段。安値安定の赤エビとカレイの干物、そして、香住鶴を購入し、日曜日への吞んだくれ準備完了。



忘年会 : 川口 : 2021年11月23日

懐かしい会です。



雪の便り : 山本恵昭 : 2021年11月29日

兵庫県北部の山にも雪の便りがやってきた。28日、初冬の山を楽しみに、実栗の名もなき山に。シカの踏み跡を藪の枝を掴みながら這い上がると、ブナやミズナラの巨木が出迎えてくれる。積雪は脛から膝くらい。ときどき長靴の上から雪が入るが、そんなの気にしない。朝の風が冷たい。倒木のキノコはすでに雪の下。でも、立ち枯れの巨木に次々とナメコが群生。かじかむ手指で収穫に熱中していると、枝の上から雪の爆弾がドーン。背中や首に命中すると、なんとも冷たい。欲張り爺さんのザックは、森を進めば進むほど、だんだん重くなる。ポッカ訓練をしているみたい。シカの足跡はあれど、姿は見せず。これから、動物たちにはたいへんな季節がやってくる。



帝釈山 : 山本恵昭 : 2021年12月14日

低山藪漕ぎハイクにちょうど良い季節になって来た。暑くもなく寒くもなく、虫もいない。木々は葉を落とし、明るくなった林の中を、落ち葉をカサカサと踏みしめ進むのが心地良い。そんなわ

けで、六甲山の裏、丹生山系の帝釈山へ、北側から浦川をたどる。昨冬は、下から沢通しに行つて、上の方で時間が無くなり焦った。今回は、下の方は沢沿いの杣道を辿る。上部で沢をつめて藪を漕ぎ、尾根上の縦走路に出た。帝釈山山頂は、陽だまりでポカポカ。下山は地図の点線をたどる。山頂以外では人に会わなかったわりには、意外とよく踏まれた道だった。



横浜で飲み会 : 越田和男 : 2021年12月14日

本日老人5名で忘年会。この歳になって母校を

離れた横浜で馬鹿話のひと時を楽しく過ごせた。幹事役よそ者の柏に感謝。約一名ドタキャンあり。転倒して怪我したらしいが、実に残念。



摩耶山トレーニング : 山本恵昭

: 2021年12月18日

18日、遠くに行けない日は、定番の摩耶山トレーニング。今日は心肺機能を意識して、市ヶ原から天狗道経由で掬星台まで、息が上がる寸前のペースをキープして頑張ると約1時間で登ることができた。上の方は雪が残っている。冷たい風が頬に気持ち良い。掬星台の東屋で冷たいオニギリを頬張っていると、前にいた人からおでんをいただいた。暖かくて旨い、有難い。次に

は、ホットワインをどうぞと言われたけど、修法が原まで車で来ていたので残念ながら辞退した。下りは、地藏谷コース。所々凍っているので慎重に、でもハイペースで下る。数日前には痛かった膝も足裏も、今日は痛くない。最近、腰や膝、肩や手指、すぐにどこかに痛みが出てくる。そんな自分の体をだましだまし調整し、まだまだ楽しみたいのです。



大雪ラッセル : 山本恵昭 : 2021年12月28日

25日土曜～27日月曜で中央アルプス空木岳に行こうと計画していたけど、大雪予報で取り止め。土日は、コタツにこもって、ゴロゴロ。27日月曜日、大雪も峠を越えたようなので、久しぶりに雪道ドライブ感覚取り戻しとラッセルトレーニング。ちくさスキー場から峰越峠、江浪峠を経て、天兒屋山1244mに行く予定。でも、道中、バスがスリップして道を塞いだり、二駆の車が坂でスタックしてたりして、着いたのが11時前。13時までと時間を切って出発。スキーを履いても、腰まで潜る林道ラッセル。2時間かけて、1000mほどしか進まない。スキーを脱ぐと、臍まで沈んだ。下りも全く滑らず、ひたすら歩いて戻る。確かに大雪。雪に閉じ込められたラッセルは悲壮だけど、いつでも戻れるラッセルは結構楽しい。単純作業の繰り返し。ゆっくり着実に前へ。真っ白な世界に描く一本の線。心の中の全てがリセットされる。



登り初め、再度山 : 山本恵昭

：2022年 1月 4日

明けましておめでとう御座います。本年もよろしくお願いたします。1月3日登り初めは、初めての再度山。修法ヶ原の駐車場に車を止め、少し登って南に下る。踏跡からはずれ、適当に森の中を右往左往。狸ヶ池でラーメンと珈琲の昼食。ここは再度山へのメインコースなので、結構ハイカーが通る。東に尾根上の踏跡を登り、ドライブウェイ沿いの登山道を北へ。この辺り、植林されたものとはわかっているけど、立派な照葉樹林に魅せられる。ブナの明るい森も良いけれど、シイの重厚な森もなかなか良い。道を離れて、森を徘徊。大きな倒木に、シイタケ、ヒラタケ、アラゲキクラゲ。大龍寺山門下に、毎日登山の石碑を発見。ニッカボッカの姿がカワイイ。そう言えば、この辺りに何度も来ているが、大龍寺にも再度山山頂にも行ったことがなかった。長い階段を避けて左側の鳥居の道を上ると、釣鐘堂に出た。本堂の右側から奥ノ院へ。さらに急斜面の道を登ると、亀石を経て再度山山頂。初めての来訪。意外と広く、見晴らしも良い。西への道を下ると、再度越の登山道に出て修法ヶ原へ。池は、このところの寒波で半分凍っていた。寒波の年末とうってかわって、穏やかなお正月。晴れ渡った空の下、食べ過ぎ飲み過ぎを少しでも解消出来たかな。



須磨アルプス：川村 静治：2022年 1月21日

1/18須磨アルプスを歩いてきました。JR須磨下車、須磨浦公園から鉢伏山、旗振山、鉄拐山、高倉台へ鉄の階段で下り、梅尾山を階段で登り直したあたりで膝がパンパン。ゆっくり、ゆっくり須磨のピークの一つ横尾山(312m)をへてスリル満点の名勝 馬の背へ。東山から板宿八幡神社に下り、板宿商店街のひょうたんで餃子と生ビールで一息つけて新長田まで歩きました。脚力の衰えを痛感したハイキングでした。



滝と鮫鱈鍋 : 飯田進 : 2022年 1月22日

凍った袋田の滝と名物大洗のあんこう鍋を求めてドライブしてきました。半分凍った袋田の滝と懸命に芸術品を撮ろうとしているバブさん。名物大洗のあんこう鍋(一人前)とカワハギの刺身をつつくご老人。寒かった旅でした。



久しぶりの山歩き : 廣瀬健三

: 2022年 1月25日

先日jacの人たちと兵庫県猪名川の雨森山に登ってきました。低い里山でした。小雪のちらつく中の軽登山、これまた、楽し。

帝釈山浦川枝沢 : 山本恵昭 : 2022年 2月 1日

丹生山系の北面は、古い杣道がとぎれとぎれに存在している。ほとんど人と出会うことがないので、プチ探検気分が味わえる。30日帝釈山北面、浦川のまだ入ったことない枝沢に行ってみた。最初は、いつもの杣道を辿る。ふと見ると、カケスと思われる羽根が散乱している。オオタカの餌食にでもなったのか。280mの二俣から右の沢に入る。傾斜も緩く、道はなくともヤブを漕ぐ必要もほとんどない。途中、良い感じの小滝が現れた。その先の谷の様子に期待したが、後半はなんの変哲も無い平凡な沢だった。古い木々が多く、ヒラタケポイントを数か所開拓。残念ながら、今回はちょっと古くて、ヒダが変色していたので収穫せず。呆気なく帝釈山東肩の縦走路に出て、山頂へ。さすがに山頂には、3グループがいて、昼食中。隅っこでラーメンを作っている間に、その人達下山すると、また誰もいなくなった。展望は良く、黒い雲の下に淡路島。シビレ山まで太陽と緑の道を辿り、シビレ山から北に伸びる道を下る。結構登り下りがあるが、途中のピークは、丹生山系北面の良い展望台だった。尾根から沢に降りる所が、あまりにも急斜面。木々に赤ペンキマークが付いているので、道である

ことは間違いないと思われる。崖崩れでも起こしたのだろうか。ブッシュにぶら下がってのクライムダウン。なんとか、もとの杉道に戻った。



ラッセル練習 : Matsunari ken

: 2022 年 2 月 6 日

ご無沙汰しております。札幌に転勤になりました。昨夜から午前中まで雪が降っていたのですが、昼過ぎにようやく落ち着いたので自宅そばの公園でホームセンターで 5000 円で買ったスノーシューを履いて大嫌いなラッセルの練習をしました。安いスノーシューだからか、少し歩くと外れるのですが湿気が少なくパウダー状の雪なのでバランスを崩すとどこまでも沈みます。坂を登ったのですが、やっぱりスノーシューでは厳しく足場がどんどん崩れて 10m 位しか登れませんでした。1 時間位で汗びっしょりになり、ヘトヘトになり自宅へ。疲れしました。

杉谷、シェール槍、布引 : 川村 静治

: 2022 年 2 月 7 日

昔比較的楽なコースだったという記憶の下に JR 六甲道から杉谷、シェール槍、シェール道、トゥエンティークロス、布引と歩いてきました。今は

砂防ダムが多数出来たため上り下り多く結構足にくるコースとなりました。おまけに斜面崩落、落橋もあちこちあり緊張する箇所もあります。シェール槍は穂高湖からよじ登るのですが、頂上の感じはいいです。三宮まで歩いて眠眠でギョーザと生ビールで疲れをいやしました。



保久良梅林で : 安井 正 : 2022 年 2 月 8 日

2 月 26 日(土) 昼 11 時過ぎから三三五五 3 年ぶりに保久良梅林で集いませんか？ラッセル不要

です。麓の居酒屋も空いています。

高雄山と再度山周辺 : 山本恵昭

: 2022年 2月20日

2月20日修法が原に車をとめて、いつもの摩耶山トレーニングのつもりだったけど、歩き始めると左膝に違和感が。こんな時は無理せず、行き先を手前の高雄山に変更。山頂まで道を辿るだけでは面白くないので、山頂から南東へ伸びる尾根を下ってみる。平凡な藪下りをしていると、地形図の等高線からは予想外の崖になってきた。仕方がないので右の谷に逃げて下っていく。危険は感じないが、小滝がいくつか現れてなかなか面白い。最後に生田川に合流するところも3mほどの滝となり、そのままでは降りることが出来ない。左岸にイノシシの獣道を見つけ、それに導かれて、ブッシュクライムダウンで市ヶ原と地藏谷出合との間の河原におり立つことができた。生田川本流を下ってみると、大きな砂防ダムの壁に行く手を阻まれる。流れは、大きな流木の墓場ようになって、砂地に吸い込まれるようにして消えていく。仕方がないので、上流へ向かう。綺麗な淵があったり開けた滑滝があったりと、意外と面白い。ナメ滝の横の岩場の上で、ラーメンとコーヒーの昼食。ナメ滝の上には、趣のある古い砂防ダム。それを超えると、地藏谷出合に辿り着いた。せっかくなので、谷沿いの旧道をたどる。すると先程の大きなダムで道は中断。また、イノシシの獣道に導かれて10mほど登り、きわどいトラバースでダム横のコンクリートの

上に到着。下流側にはロープがついていて、簡単に道に戻ることができた。市ヶ原から再度山の麓をブラブラ徘徊。狙い通り、キクラゲ祭り。冬のキノコ、エノキタケとヒラタケも少々ゲット。しばらくキクラゲ料理が続くことになる。



ゴロゴロ岳 : 川村 静治 : 2022年 2月26日

甲陽園から北山公園、苦楽園尾根、ゴロゴロ岳、

奥池へ行ってきました。ゴロゴロ岳はかつて565.6m、現在は565.3m、すぐ横から豪邸村がはじまります。芦屋川への帰路が難路になっていました。芦有は歩行者禁止なのでゴルフ橋までは芦屋川を橋で渡りながら何ということはないのですが、芦屋ゲートから弁天岩までの高巻道は、不明瞭な踏み跡程度。枝道もあって迷いました。芦屋川を岩伝いに渡って弁天岩から城山国有林歩道を行くと湧き水が2カ所あって、最後のあたりが崩壊して通行止めとなっています。左に川まで下っても私有地の鉄柵で行き止まり。登り直して工事現場を通り抜けましたが、工事はほとんど終わっていて特に問題なく通行できました。城山の登山口にでてきます。



部室棟跡地と観梅会 : 大森雅宏

: 2022年 2月26日

部室の跡地と観梅会の語らいの様子、画像でご

紹介します。部室はつい最近取り壊されたとか。たまたま通りかかった学校職員氏に教えてもらいました。観梅会ご参加は、手前左が牧野さん 時計回りに川村さん 山本さん 浪川さん 安井さん。快晴のきりつとした空気の中、皆さんお元気で話が弾みました。



小野アルプス 惣山と紅山

: 山本恵昭 : 2022年 2月28日

小野に住む息子宅を訪ねたついでに、小野ア

ルプスに。フル縦走するには時間がないので、鴨池駐車場に車をとめて、惣山と紅山をさらりと巡る。静かなハイキングのつもりだったが、老若男女、単独や家族連れなど、様々な方々がこのコースを楽しんでいて、結構賑やか。しっかりした登山道を進むと、展望台を経て、惣山山頂。日本一低い小野アルプスという看板がかかっている。惣山も紅山も、標高200m前後の山であるが、展望がすこぶる良い。紅山の南面は露岩の尾根。岩が赤っぽいのが名前の由来かな。手をつかずになんとか登れる傾斜であるが、転げると下まで落ちそう。ちょっとした緊張が心地良い。鴨池に戻ると、オナガガモを中心に、ヒドリガモ、オオバンなどが岸边に集まっている。地元のお爺さんが、くず米をまいていた。添加物が多いので、パンは与えないで下さいとのこと。キャンプ場は、水鳥の保護のために冬場は閉鎖。この間までハクチョウがいたんだけどと、残念そうに説明してくれた。毎朝、紅山に登って、鴨池の鳥たちに餌をやるのが日課だそう。このあたりの地名は、キスミと言うそう。kiss meではなく、来住。なんだか良い響き。心がほんわかした1日となった。



六甲最高峰から有馬 : 川村 静治

: 2022年 3月10日

住吉神社の横から有馬道に沿って六甲最高峰に至り、有馬温泉まで歩いてきました。明治の初めまで有馬へ行くには住吉からかごに乗って行ったと伝えられています。住吉神社の横の石碑には有馬は北へ九十丁(9kmほど)とあります。ここから出発して住吉川をさかのぼり七曲りを登って最高峰へ。後北に魚屋道を下って金の湯につかってきました。七曲り、魚屋道何れも崩壊箇所があり迂回路が設定されていました。Yamapの記録によると実歩行距離は13km、上りは累計1227mでした。有馬温泉駅から三宮まで谷上乗り換えで電車がとても便利になっています。



シイタケと梅の花 : 山本恵昭

: 2022年 3月14日

腰痛再発でしばらく運動しないしていると、どんどん体力が落ちていく。老化現象恐ろしや！少し痛みがマシになってきたので、恐る恐る低山ハイクで様子を見てみる。3月12日、この時期のキノコの主役は、おなじみのシイタケ。天然シイタケを求めて、再度山周辺の森を徘徊。山の中はカラカラに乾燥していて、見つかるのは小指サイズの赤ちゃんシイタケ。これから、ひと雨ごとに大きくなるのかな。それでも、なんとかおかず程度は収穫。ついでに、ヒラタケ、キクラゲも。折角なので、大龍寺から再度山山頂へ。そこから北に藪を漕いで駐車場に直接下るが、最後はコンクリート壁に遮られる。同じく行き場に困ったヒキガエルとともに迂回して修法ヶ原駐車場に。ヒキガエルを放すと、意外と速い動きで藪に消えていった。13日、食物ばかり探していると風情がないので、梅の花を愛でに須磨浦山上遊園梅林に。塩屋の海からスタートし旗振山の往復。春霞に淡路島が霞んでいつもの絶景はお預け。ポカポカ陽気で、梅堪能。



天児屋山 山スキー : 山本恵昭

: 2022年 3月22日

今年は雪が多いようだが、年末の大雪のなか2時間かけて1000mほどラッセルしただけで、それ以外は全くスキーに行けていない。3月21日、最近貰ったスキー板の調整を兼ねて、ちぐさスキー場から天児屋山へ向かう。出発準備していてビックリ！シールがない。昨夜、隣においていた別のザックに入れてしまったようだ。これから、年齢とともにこういう忘れ物が増えてくるのかなあ。斜登行、階段登行を駆使して、体力勝負。右に左にスノーブリッジを渡り、後半は尾根上のトレースを辿って、なんとか山頂まで辿り着いた。景色は絶品。



水辺のまちとしての歴史を誇る今市

舟運を利用した物資の集散地 高砂市伊保町今市

渋沢栄一ともゆかりのある町

さて中央公民館から千鳥大橋を渡って今市の集落に入っていく。取っ付きに住吉神社があり、そこから先に進むと左手に高い堀が続いていく。伊藤家で、現当主の七代目伊藤長次郎さんによれば、今市の南を東から西へと向かうライン、今は新興住宅や荒井中学校が立地しているあたりが洗川の流路だったそうで、「屋敷の周囲に大きな木が 5、6 本あり、昔はそれに洗川を上ってきた千石船を繋いでいたそうです。私の子供の頃になると水量も減って廃川敷になっていましたが、潮の満ち引きで水かさが増えることもあり、漁師さんが仕掛けを入れて鰻を取っていました。昭和 40 年頃に完全に埋め立てられてしまい、川があったことを知る人も減ってしまいましたが、防災の観点からもそのことを伝え残していけないといけないと思いますね」と話す。

（中略）高砂などが姫路藩領であったのに対し、今市と中島は幕府代官領を経て 18 世紀中期以降から一橋家の領地になったところ。一橋家は御三卿の 1 つで幕末に將軍徳川慶喜を送り出したことで知られるが、明治以降、民間産業の育成に尽力し、「日本資本主義の父」ともいわれる渋沢栄一は一橋家の家臣で、今市村に当時あった山口家に滞在。播州に 2 万石あった一橋領から取れる上米を直接難・西宮の酒造家に売ることで一橋家の財政を立て直し、「今市札」と呼ばれる藩札引換の会所を今市村に置き、伊藤・鈴木・入江家にもしばしば出入りしたと伝えられる。

余談ながら渋沢栄一の孫娘が伊藤家に嫁いているが、その子息がいろいろとお話を伺った七代目伊藤長次郎さんである。

高砂商工会議所報「なびつま」VOL239「たかさご遊歩」より抜粋 — (H27.1)

・ 記事にある「七代目伊藤長次郎さん」は、

旧制高等学校山岳部のメンバーの伊藤長次郎氏（旧理 21）です。

編集後記に代えて

寄稿のお願い

皆さんからの原稿をお待ちしています。
最近の山旅、学生時代のこと、行事に参加して、などジャンルを問いません。
最近山に行っていないからムリ、とお思いの方。
甲南山岳会は若い時に一緒に山に登ったメンバーの仲良しクラブ、と私は思っています。
仲良しクラブの会報です。
山以外の原稿大歓迎です。
来年は貴兄からの原稿をお待ちしています。
原稿が集まらないことには次号はありません。

山嶽寮 編集長 塩崎将美

山嶽寮 第77号

甲南山岳会

神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学内

2022年(令和4年)10月

編集人塩崎将美

印刷(株)春日